

1 単元名 お話を読もう②「おじいさんとねずみのおはなし」

2 授業実践

実施日：令和7年9月25日（木） 2校時		授業者	佐々木奈織
参観者： 千葉、鈴木、阿部、石郷岡、松井、深川			
★ 本時の目標			
対象児童	教科・段階	目 標	
A	国語小2	挿絵をヒントにして時間の経過を理解し、おじいさんの気持ちを想起する。	
★ 本時の「適切な言語環境づくり」			
<ul style="list-style-type: none"> イメージしやすいように挿絵を提示し、短く簡潔に、分かりやすい言葉で説明したり書いたりする。 短い文で答えられるように、「～は」「～を」等の助詞を強調しながら質問する。 			
★ 本時の「具体的に考える場面の設定と工夫」			
<ul style="list-style-type: none"> 活動に見通しがもてるように、場面の順番に挿絵や吹き出しカードを掲示する。 おじいさんの気持ちをイメージできるように、小道具を使って動作化する場面を設ける。 2の場面の状況を考えられるように、「どうして、二つ目のおむすびを食べませんでしたか？」と質問する。 表現が難しいときは、選択肢や例を提示して本児の考えを確認する。 			
★ 各教科等を合わせた指導における国語科で学んだことの活用場面（具体例）			
学年・対象生徒	指導の形態	単元名	
4年 A	生活単元学習	「楽しい学校をつくろう」	
<ul style="list-style-type: none"> 視覚情報を手がかりに、教師の説明を聞いて役割や製作方法を理解したり、自分が取組んだ様子をみんなに短文で伝えたりする。 			

3 評価規準

対象児童	教科・段階	領域	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学ぶ態度
A（4年）	国語2	聞く話す	・読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもっている。	・教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えている。	・挿絵などを手がかりにして、質問に答えたり、文字を読んだりすることに関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。

4 授業評価（参観者の意見はロイロノート共有ノートに記載する）

	成 果	課 題 ・ 改善案
適切な言語環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・話す、聞く活動を主体として構成している。 ・自分の言葉で意欲的に表現しようとしていることを受け止めて言語化し、正しい言葉にしている。 ・板書、助詞カード、具体物などの視覚教材を活用することで分かりやすい。 ・挿絵の様子についてインタビュー形式で質問し、聞くことや、短い言葉で答える活動を入れている。 ・聞く力の弱さを、ウォーミングアップで補う時間を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何がどうした」の文章を作る力を高めたり、語彙を増やしたりすることも大事。 ・1つの場面を掘り下げる授業計画もある。 ・質問に答えられないときの支援方法を考えておく（再度確かめる、選択カードなど）。 ・助詞に注目できるようにマーキングする。
具体的に考える場面の設定と工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵の様子をじっくり考えたり、小道具を使って操作したりすることで、おじいさんの心情が理解しやすい。 ・これまでの学習の中で物語の内容の読み込みを行っているため、心情の学習も理解しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを表すカードや一覧等を用意して選択させる。 ・ねらいとする助詞を使った、答えやすい質問を吟味する。 ・自分はどんな時にその「気持ち」になるのか質問してもよい。 ・「まとめ」の内容を検討していく。中心課題にせまれる内容にしていく。

5 本単元の個別の達成状況

児童名	教科・段階	知	技	思	判	表	学	人	評価につながる具体的な様子
A (4年) 男子	国語2	◎	◎	◎					<ul style="list-style-type: none"> ・教師と二人で音読する文章を分担することで負担感が減り、文字を飛ばさないように指を当てて確かめたり、「すっとなん」をリズムカルに読んだりして、読む楽しさを味わった。 ・挿絵や具体物の操作から段落の内容をイメージし、自分なりの表現で教師の質問に答えたり、おじいさんの心情を選択肢から考えたりした。 ・教師が助詞を強調した話し方をすることで、児童も助詞を意識して質問に答えた。 ・小学部の学習発表会で音読の披露をすることをゴールにして、意欲的に音読練習に取り組んだ。

6 各教科等を合わせた指導における学びを広げる姿

<p>★成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心の高い製作活動を通して、経験したことや伝えたいことを助詞を使って短文で表現することが増えてきた。 ・読み書きする力が付いてきたことで、単語や短い文を読んで理解しようとするようになってきた。 <p>★課題・改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞く力が弱いため、文字で正しい言葉を押えたり、友達の様子などの視覚情報を活用したりしながら、指示理解できるようにしていく。 ・振り返り活動等でさまざまな感想を表現できるように、感情を表現するカードを活用していく。

【中学部】

国語科：授業を見合う会の記録

1 単元名 「学校を紹介しよう②」

2 授業実践

実施日：令和7年9月10日（水）2校時		授業者	石郷岡 幸子
参観者：栗田、千葉、山岡、櫻田、佐藤綾、小玉、高橋る、深川			
★ 本時の目標			
対象児童	教科・段階	目 標	
B	国語中Ⅰ	・自分で調べたり考えたりしたせんぼく校の特徴から小学生に紹介したいことを一つを選び、クイズや説明を分かりやすく書く。	
C	国語中Ⅰ	・せんぼく校のよいところを考え、自分の言葉で表現したりクイズや説明に盛り込んだりする。	
★ 本時の「適切な言語環境づくり」			
<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい表現にできるように、難しい言葉の言い換え方を辞書で調べたり、友達や教師と相談したりする。 ・伝わり方を実感することができるように、友達同士でクイズを出し合ったり、動画で見たりする。 			
★ 本時の「具体的に考える場面の設定と工夫」			
<ul style="list-style-type: none"> ・紹介したい内容を盛り込んだクイズや説明を書くことができるように、生徒が挙げたせんぼく校の特徴やよいところについて詳しく聞いたり、様々な学習での生徒の様子や頑張りを伝えたりする。 			
★ 各教科等を合わせた指導における国語科で学んだことの活用場面（具体例）			
学年・対象生徒	指導の形態	単元名	
中学部3年B	生活単元学習	せんぼく校の魅力発信～鎌足和紙を伝えよう	
<ul style="list-style-type: none"> ・鎌足和紙体験会でのパネル説明で、小学生に伝わるように易しい言葉を選んだり、簡潔な文を構成したりして原稿を作る。 			

3 評価規準

対象生徒	教科・段階	領域	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学ぶ態度
B	国語中Ⅰ	書くこと	・普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うことができる。	・見聞きしたことや経験したことから、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめている。	・伝えたいことを選びまとめて書く学習に関心をもち、学習に積極的に取り組もうとしている。
C	国語中Ⅰ	書くこと	・事柄の順序など、情報と情報の関係について理解している。	・相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。	・文の構成や語句の使い方に関心をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。

4 授業評価（参観者の意見はロイロノート共有ノートに記載する）

	成 果	課 題 ・ 改善案
適切な言語環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の経験や知っていることがベースとなっている。 せんぼく校と交流校（小学校）の比較することで学校の特徴やクイズを考えやすい。 小学校交流での発表がゴールとして設定されており、目的意識をもつことができる。 伝える相手が決まっているため、どのような表現にすればよいかイメージしやすい。 クイズを出し合ったことで、クイズを通して新しいことを知る経験ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科ではロイロノートであっても文章の決まりを押さえる。 クイズ作りに必要な情報（西暦と和暦など）を整理する。 3択クイズの作り方や「ミニ解説」に何を書か、例を掲示しておくとうよかった。
具体的に考える場面の設定と工夫	<ul style="list-style-type: none"> 前時に考えた「特徴やよいところ」や友達の発言、教師が挙げた例が生徒にとってヒントとなっていた。 生徒が自分でじっくり考える時間を確保した。 友達が考えた特徴からせんぼく校のよさに気付くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の特徴を探せる資料や選択肢としての写真等があればクイズを考えやすかった。 見た物の特徴をどんどん出す学習を行うことで、さらに特徴を出すことができた。 せんぼく校の特徴やよいところを他の人に聞いたり、相手が知りたいことを収集したりする活動があってもよかった。

5 本単元の個別の達成状況

生徒名	教科・段階	知	技	思	判	表	学	人	評価につながる具体的な様子
B	国語中1	○	◎	○					<ul style="list-style-type: none"> クイズに取り上げたい内容を選んだり、より楽しんでもらえるクイズにするための工夫をしたりした。 友達が選択肢に迷っているときにアドバイスになる発言をした。
C	国語中1	○	◎	◎					<ul style="list-style-type: none"> 「小学校より人数が少ない」という特徴から「みんな仲がよい」というよさに気付いた。 書くことや構成に迷ったときに相談することができた。

6 各教科等を合わせた指導における学びを広げる姿

<p>★成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流相手に伝えようという気持ちで言葉を選んだり、話し方を工夫したりした。 1回目の交流会を経験したことで、クイズを出題する前に簡単な学校紹介があった方がよいことが分かった。2回目、3回目の交流会に向けてクイズの始めに紹介文を追加した。 パネル説明で、小学生には分かりにくい言葉をかみ砕いて説明した。 鎌足和紙製品の作り方説明で、原稿に相手を思いやる言葉を入れたり、交流相手の様子に合わせた言葉を掛けて手伝ったりした。 <p>★課題・改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> 西暦と和暦が混ざっていたものを西暦に統一してクイズを分かりやすくした。 交流中、教師が仲立ちをしながら小学生と会話をする中で、小学生に質問したり、「せんぼく校はいいところだ」と自分が感じていることを話したりした。 鎌足和紙作製の各工程の写真から、見てもらいたいポイントを選んで説明を加えた。

【高等部】 国語科：授業を見合う会の記録

1 単元名 「観光案内の秘伝の技」

2 授業実践

実施日：令和7年10月3日（金） 2校時	授業者	佐藤 綾子、櫻田菜保
参観者： 栗田、佐々木、山岡、樋渡、小玉、能登谷、鈴木、熊谷、赤川、阿部、高橋齊		
★ 本時の目標		
対象児童	教科・段階	目 標
D、E	国語小3	・話し手の質問に関心を持ち、その質問に対して簡単な言葉で答えることができる。
F、G	国語中1	・話し手の答えに関心を持ち、その答えに対して短い言葉で感想を伝え、会話を広げることができる。
★ 本時の「適切な言語環境づくり」		
<ul style="list-style-type: none"> ・会話カードを活用して視覚的支援を行い、質問や答えを可視化する。 ・短文や簡単な言葉でやり取りする環境を整える。 		
★ 本時の「具体的に考える場面の設定と工夫」		
<ul style="list-style-type: none"> ・観光客役と案内人役になり、質問と返答のロールプレイングで実践する。 		
★ 各教科等を合わせた指導における国語科で学んだことの活用場面（具体例）		
学年・対象生徒	指導の形態	単元名
高等部3年G	観光科	高等部せんぼくいきいきプロジェクト②
歴史文化グループの観光案内において、観光案内目的地への移動時に、観光客と会話を行う。		

3 評価規準

対象児童	教科・段階	領域	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学ぶ態度
D、E	国語小3	聞くこと 話すこと	出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現にふれる。	相手の話に関心を持ち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりする。	会話活動に意欲的に参加しようとしている。
F、G	国語中1	聞くこと 話すこと	普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使う。	相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつ。	会話活動に意欲的に参加し、自分から発話しようとしている。

4 授業評価（参観者の意見はロイロノート共有ノートに記載する）

	成 果	課 題 ・ 改善案
適切な言語環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・板書が整理されていて、学習する内容や流れが分かりやすい。 ・会話カードを活用することによって、ゲーム要素の楽しさがあり、生徒が並び替えたり、書き込んだりするなど、試行錯誤しながら取り組んでいたことがわかる。 ・観光客との会話で、観光客がどのように答えるか想像できないこともあることから、実践に使える会話カードは有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内に向けての学習であるため、本番を想定した話し方ができると良い。 ・教師の意図が確実に伝わるようにロイロノートにイラストや写真を添付し、吹き出しに記入する内容でも良かった。 ・めあては「気持ちを考えたやりとり」であったが、相手の話を受け止めることが優先的に行われており、「相手の思いや考えを受け止めながら自分の思いを伝える」ことを含めためあてへの再考が必要である。
具体的に考える場面の設定と工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な学習形態となっており、馬蹄形の座席配置であることによって、ペアでの学習活動から演習への流れに移りやすい。 ・「観光」の授業に即した内容であるため、意欲的に学習に参加でき、見通しをもちやすい学習内容である。 ・生徒の発言を生かしており、課題意識が高まる単元構成である。 ・受け答えを考える学習であるが、コミュニケーション力が身に付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態差のある学習グループにおいては、複数の目標設定が必要である。 ・気持ちに具体例をいくつか提示することで、生徒も分かりやすくなり、具体例によって評価基準が分かりやすくなる。 ・自己評価と他者評価の場面設定をし、生徒自身がロールプレイングをした感想や、見ていた人の感想をもらうことで、次時の課題につながる。

5 本単元の個別の達成状況

児童名	教科・段階	知	技	思	判	表	学	人	評価につながる具体的な様子
D	国語小3	○	○	○	○	○	○	○	案内人役からの問いかけに、観光客として「秋田は初めてです。」「飛行機で来ました。」などの会話カードを用いて、質問に応じた返答をすることができた。
E	国語小3	○	○	○	○	○	○	○	田沢湖や秋田空港、武家屋敷など、今までに訪れたことのある場所を会話に取り入れながら案内人役として、観光客役と会話をすることができた。
F	国語中1	○	○	○	○	○	○	○	観光客役の返答に対して、案内人役として「ようこそお越しくださいました。」「楽しんでください。」など、自分で感じたことを短い言葉で伝えることができた。
G	国語中1	○	○	○	○	○	○	○	観光客役の言葉を受け止めて、案内人役として「飛行機からの景色はきれいですよね。」「秋田市といえば、ポートタワーセリオンがおすすめですよ。」など、自分の経験を取り入れながら会話をすることができた。

6 各教科等を合わせた指導における学びを広げる姿

<p>★成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目の観光科における観光案内において、「どこから来ましたか。」「秋田は初めてですか。」等の言葉掛けを自発的にすることができていた。昨年度は、教師が会話の端緒となることが多かったが、今年度は本単元の学習内容をもとに、生徒が主体的に会話をすることができた。生徒自身も会話を楽しめたと満足していた。 <p>★課題・改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ定型文は会話の中で活用できていたが、観光客の返答を生かした会話への発展には至らなかった。そのため、生徒の経験をもとに言葉や知識を引き出し、会話として言葉のキャッチボールにつながる学習が必要である。
--